

安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 326 2023 年 9 月 27 日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

代表質問 ハイライト

9 月 27 日 代表質問 太田秀子市議

第 3 回定例市議会が行われ、太田秀子市議が代表質問に立ちました。質問項目は大きく 7 項目にわたり、「市長の政治姿勢について」「2030 年札幌冬季オリンピック・パラリンピック招致について」「猛暑に対する備えについて」「新型コロナウイルス感染症対策について」「働く若者への支援について」「学校給食費の公費負担拡大について」「大通及びその周辺のまちづくりについて」質問しました。

「市長の政治姿勢について」では、福祉灯油に対して同市議が「燃油は厳しい冬を越すための命綱であり、高く購入できないということはあってはならない。市長は、灯油が生活必需品であるとの認識をお持ちなのか」と質問。秋元市長は「灯油価格の高騰が市民生活に大きな影響を与える事は承知している」としながらも「国が実施している抑制策や実施状況を注視しながら、国に対して要請してまいりたい」と国任せで、札幌市民が寒さで凍える恐れがありながらも市独自の対策を打ち出すとは答弁せず、冷たい姿勢を明らかにしました。

「マイナ保険証」について、同市議は「今後政府は、レセプト、予防接種、電子処方箋、自治体健診、電子カルテなどの情報も医療機関で共有できるようにする方針。医療関係者は、すべての医療機関や事務職員まで情報が共有できるようになるのは問題が多すぎると指摘している」と紹介。また、マイナ保険証で誤登録が頻発し、現行保険証の廃止が政府によって検討されている中で、同市議は「行保険証の廃止方針を見直すよう国に求める考えはないのか」と端的に質問。秋元市長は「国でシステムチェックの導入等が示されており、市として廃止方針を国に求めることは考えていない」と答弁しました。

「2030 年札幌冬季オリンピック・パラリンピック招致について」では、同市議が「本市が試算している大会運営費、いくらと試算しているのか」「IOC に支払ったロイヤリティやトップスポンサーとの契約内容は、都議会での追及でも明らかにされませんでした。（これらの費用について）公開を求め、実行されなければ、本市がうたう、IOC との対等平等な関係は築けないと考えますが、いかが」と質問。予算について秋元市長は「随時、大会の規模・仕様などの精査・見直しが行われると認識している。予算の検討状況については、定期的に市民に説明・周知していく必要があると考えている」と答弁。情報公開については「可能な限り公開出来るように、IOC との対等な立場での協議に努めてまいりたい」と IOC とのロイヤリティやトップスポンサーとの契約に税金が使われるにも関わらず、使途の公開について確約しませんでした。また、再々質問で、「JOC 理事会で札幌市が国内候補地として決定しているが、本市の決断で招致を止める事は出来るのか」と手続き的な質問に、秋元市長は答弁不能となり、引き続き市民に理解を求めると繰り返しました。

また、秋元市長は自身の公約として「市民の意向を確認したうえで招致を目指す」としていました。そこで同市議は「市長の公約は、どのように実行されるのか」と質問。秋元市長は「一層の市民理解の促進に務めた上で、民意の確認を行いたい。その手法についても、市民の意向の的確な把握や市民参加のあり方などの観点から検討したい」と住民投票については一切触れませんでした。

